

四国民放クラブ活動だより

〓総会中止〓

「総会、どうする？」開催が延期されている四国クラブの総会開催について10月初め新旧会長、理事長と四国、西日本放送の事務局担当者で協議しました。

「人事、決算などの議決やクラブ設立20年の記念行事などの計画もあるが、現在の状況では開催は難しい。議案書を郵送し、電話やメールで議決権を行使していただく」との結論に至りました。

会則第5章「総会」第12条で年1回の総会が義務付けられています。已むない処置で、会員の皆さんの大事な意思決定の場をこの様な形で済ますことは、本意ですが、昨今のコロナ騒動下では、仕方のない処置として了解を得る事としました。

〓懇親ゴルフコンペ開催〓

秋は、悪天候で中止、春のコンペは総会の延期で開催を取り止めました。そんな中、会員から四国クラブはゴルフ部会だけだ。そのゴルフが中止、延期では、会の魅力が無い。せめてゴルフだけはやってよ！との意見があり、急遽、

高知の会員にお願いをし11月27

日高知黒潮カントリーで懇親ゴルフコンペを開催いたしました。当日は最高のゴルフ日和となり、14人の参加者は和気藹々と久しぶりのゴルフコンペを楽しみました。

コロナ禍の俳諧閑話

松谷富彦(あいテレビ)

コロナ禍は、発生から一年になるが、今なお終息の目途の立たない明け暮れが続く。なりわいの転から解放され、結社同人として俳句漬けの日々を送っていた日常も激変。席を連ねていた大方の句会がインターネット利用のテレワーク句会になった。

なんともやるせない「コロナ塾居」の明け暮れ。つい十七字の愚痴が口をつく。

秋深し句座もネットのテレワークくしやみして周囲固まる車内かな

四国民放クラブ空海部会の札所巡りも今年中止となり、東京から愛媛望郷の駄句三句。

渡船場の鉄板軋む今朝の冬

(松山市・北条鹿島で)

秋雨や坊ちゃん列車の薄けむり

(松山市大街道で)

コロナ禍や変哲もなく赤のまま(道後公園の堀端で)

ところで俳句詠みは、「多作(詠多捨)」の教えがある。「千三つ屋」の言葉借りるなら「千句詠んで佳句が三句あれば上々」の戒め。言い換えると、松尾芭蕉も正岡子規も名句、佳句ばかりを詠み続けたわけではない。駄句もあれば、破礼(ばれ)句、狂句に近い句も結構数多く遺した。「多詠多捨」

の俳句の習いを考えると、その何倍もの駄句、面白句が詠まれたはず。約二万四千句を遺した「ノボさん」こと子規の遊び心いっぱい句も拾い出したら、あるはあるは。その中の百二十三句を選び、松山市立子規記念博物館長を務めたコラムニスト、天野祐吉さん

(註・平成25年没)が一句ごとに短くて粹な鑑賞を付け、エッセイストの南伸坊さんの俳味豊かな一筆画を添えた楽しい『笑う子規』(ちくま文庫)が百二十年忌(平成23年)に出版され話題に。これが四年を経て文庫本で再登場、コロナ疲れに「くすり」「にやり」

はいかが。ほんとは冒頭に搭載句(峯丸をのせて重たき団扇哉)を置いて話

を進めたかったが、謹直の民放クラブ諸兄姉に読んでもらえぬのを危惧し、長い言い訳になった次第。

ここからが本題。右紹介句の天野鑑賞は(いやらしいなぞと言う人はいやらしい。これこそ、平和の図だ。真之なら「峯丸」が「砲丸」になつてしまふ。)

〈えらい人になったそうなたとた涼〉鑑賞(「秋山さんとこのご兄弟は、えらいご出世じゃそうな」
「それに比べて、正岡のノボさんは相変わらずサエんなあ」)
〈か
らげたる赤腰巻や露時雨〉鑑賞(露
でびつしより濡れた道を、赤い腰
巻をからげて女が行く。じろじろ
見るな、ちらちら見よ。)
〈松茸
はにくし茶茸は可愛らし〉鑑賞(松
茸はたしかにうまいが、あの形が
気に入らん。とりわけ、でかいの
が憎々しいな。…)
〈峯丸の大き
な人の昼寝かな〉鑑賞(…
禪から
ハミだしているあの人のアレは大
きいなあ。)
〈蝶飛ぶアダムモ
イヴモ裸也〉鑑賞(…
りんごなん
かを食べたせいで、衣装という名
の常識からだを隠すようになって
いく。りんごじゃなく柿にしと
けばよかつたんだ。)
紙幅が尽き
たようので、擱筆。